

第50回景況アンケート調査 結果報告書

(令和3年4月20日作成)

足利商工会議所

足利市通3丁目2757
Tel.0284-21-1354 Fax0284-21-6294

《令和 3年1月～3月期》実績
《令和 3年4月～6月期》見通し

調査要領

1. 調査目的

本調査は、当所管内事業所の経済動向及び現状を把握し、今後の経営支援や関係機関への施策、要望等の参考に資することを目的とする。

2. 調査期間

令和3年3月25日(木)～令和3年4月14日(水)

3. 調査対象企業

足利商工会議所議員事業所、足利地区雇用協会事業所など市内主要企業206社
(うち回答企業数158社：回答率76.7%)

4. 回答企業数

製造業	57社
繊維工業	18社
建設業・設備工事業	24社
卸売業・小売業	25社
飲食業・サービス業	34社
計	158社

5. 景況指数DIについて

分析方法[景況動向指数(DI)による]

景況指数は、好況・不況の差を指数にしたものであり、基準指数が「0」で、上限はプラス100・マイナス100となり、プラスは景況の好転(増加)、マイナスは景況の悪化(減少)をあらわしている。

DIについては数値の水準のみならず、数値の変化がどういう方向を向いているかが重要になっている。

DI方式は、
$$\frac{3x - 3z}{3x + 4y + 3z} \times 100$$
により算出

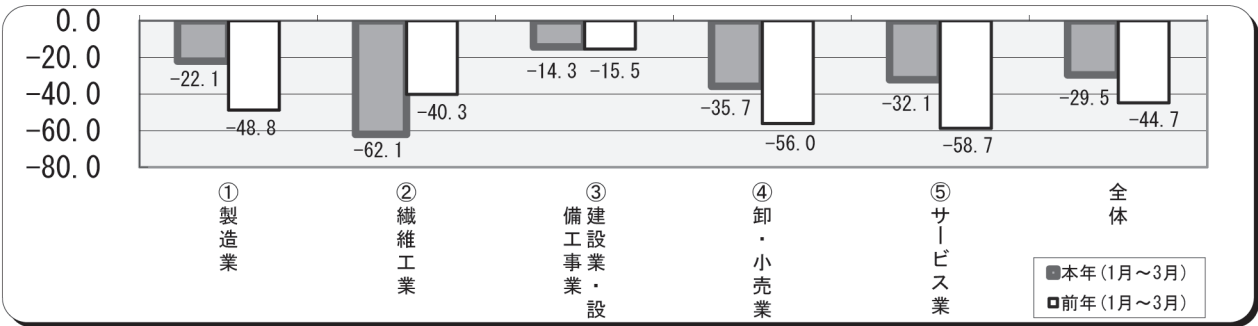
x：「好転」「増加」「上昇」等の回答企業数

y：「普通」「適正」の回答企業数

z：「悪化」「減少」「下落」等の回答企業数

I. 当期（1月～3月）の景況について

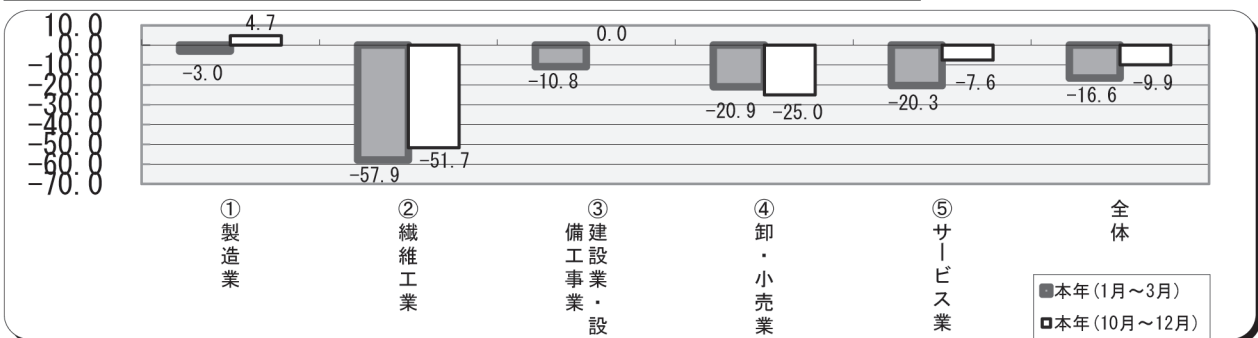
1. 当期の業況は前年同期（1年前）に比べて



【業況D I】

当期の業況D Iは、全体では▲29.5ポイント（前年同期▲44.7）と、前年同期に比べて15.2ポイントマイナス幅が縮小した。業種別でも、製造業は26.7ポイント、建設業・設備工事業は1.2ポイント、卸・小売業は20.3ポイント、サービス業は、26.6ポイントとマイナス幅が減少傾向にある一方、繊維工業では21.8ポイント悪化した。

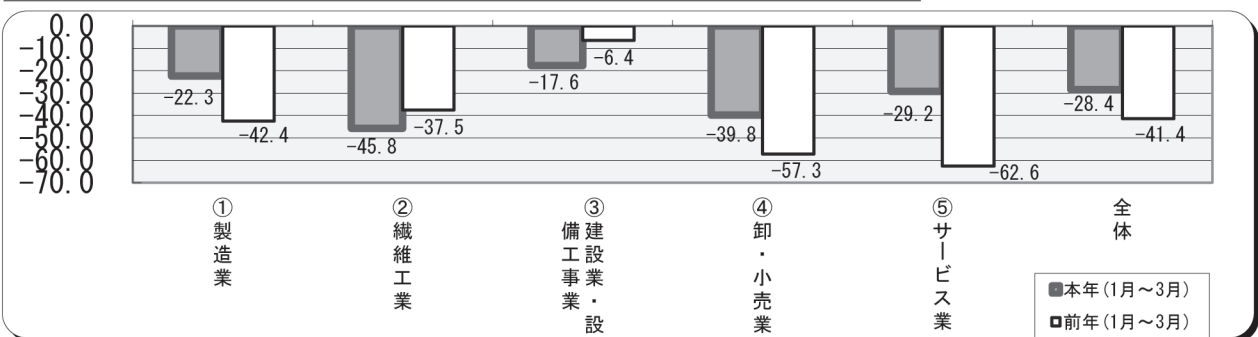
2. 当期の業況は前期（3ヵ月間）に比べて



【前期（前3ヵ月間）業況D I】

当期の業況D Iは、全体では▲16.6ポイント（前期▲9.9）と、前期（前3ヵ月間）に比べて6.7ポイントマイナス幅が拡大した。業種別では、製造業が7.7ポイント、繊維工業が6.2ポイント、建設業・設備工事業が10.8ポイント、サービス業が12.8ポイントマイナス幅が拡大したのに対し、卸・小売業では4.1ポイントマイナス幅が縮小した。

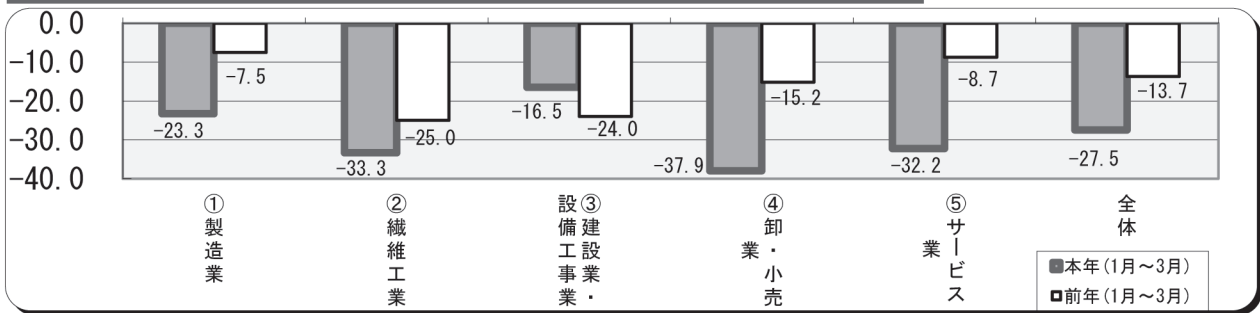
3. 売上高は前年同期に比べて



【売上高前期D I】

売上高D Iは、全体では▲28.4ポイント（前年同期▲41.4）と13.0ポイントマイナス幅が縮小した。業種別では、製造業では、20.1ポイント、卸・小売業では、17.5ポイント、サービス業は33.4ポイント減少したが、繊維工業は8.3ポイント、建設業・設備工事業は、11.3ポイントマイナス幅が拡大した。

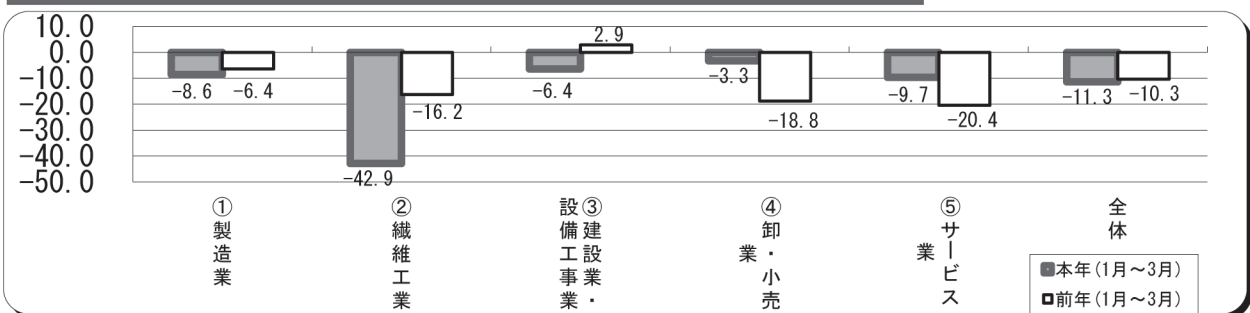
4. 仕入価格（原材料）は前年同期に比べて



【仕入価格（原材料）D I】

仕入価格（原材料）D Iは、全体では▲27.5ポイント（前年同期▲13.7）と前年同期に比べて13.8ポイントマイナス幅が拡大した。業種別では製造業・繊維工業・卸・小売業・サービス業共に、マイナス幅が拡大したが、建設業・設備工事業のみマイナス幅が縮小した。

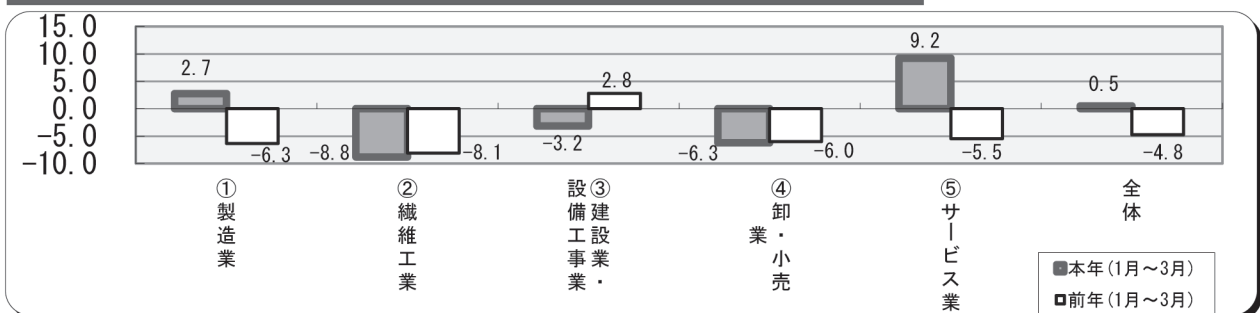
5. 受注・販売価格は前年同期に比べて



【受注・販売価格D I】

受注・販売価格D Iは、全体では▲11.3ポイント（前年同期▲10.3）と前年同期と比べ1.0ポイントとわずかにマイナス幅が拡大した。業種別でも、製造業では2.1ポイント、繊維業では26.6ポイントマイナス幅が拡大、建設業・設備工事業では9.2ポイント下落しマイナスに転じた。また、サービス業は10.7ポイント、卸・小売業は15.5ポイントとマイナス幅が縮小した。

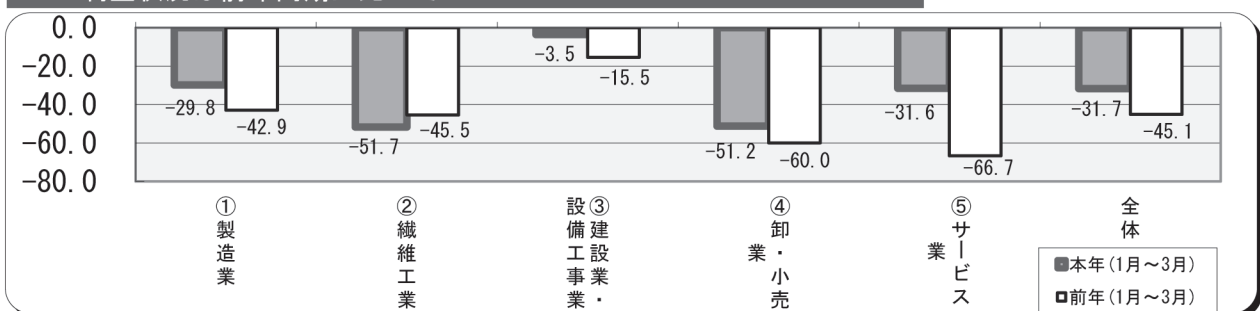
6. 当期の製品（材料）在庫は前年同期に比べて



【在庫D I】

当期の製品（材料）在庫D Iは、全体では0.5ポイント（前年同期▲4.8）と、前年同期に比べて5.3ポイント回復した。業種別では、繊維工業、建設業・設備工事業、卸・小売業でマイナス幅が拡大した。製造業では2.7ポイント（前年同期▲6.3）、サービス業では9.2ポイント（前年同期▲5.5）とマイナスからプラスに転じた。

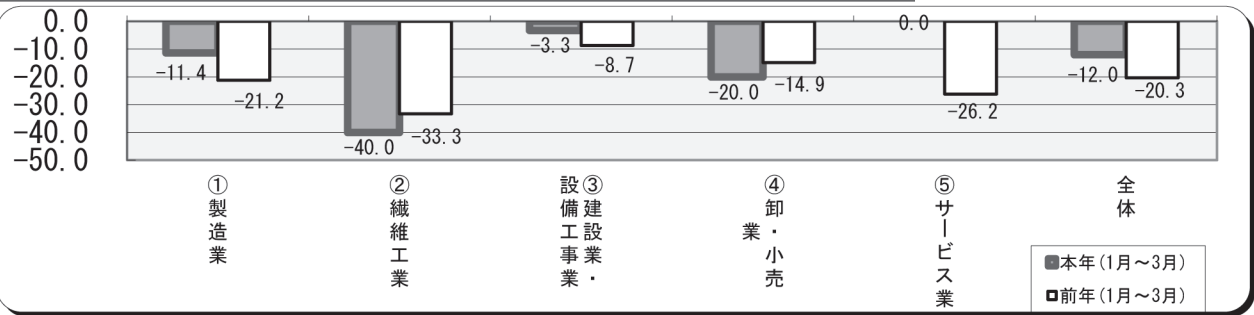
7. 利益状況は前年同期に比べて



【利益状況D I】

利益状況D Iは、全体では▲31.7ポイント（前年同期▲45.1）と、前年同期と比べて13.4ポイントとマイナス幅が減少。業種別では、製造業、建設業・設備工事業、卸・小売業、サービス業共にマイナス幅が縮小し、特にサービス業では、前年同期比35.1ポイントと大幅にマイナス幅が回復。一方、繊維工業は、前年同期比▲6.3ポイントと悪化した。

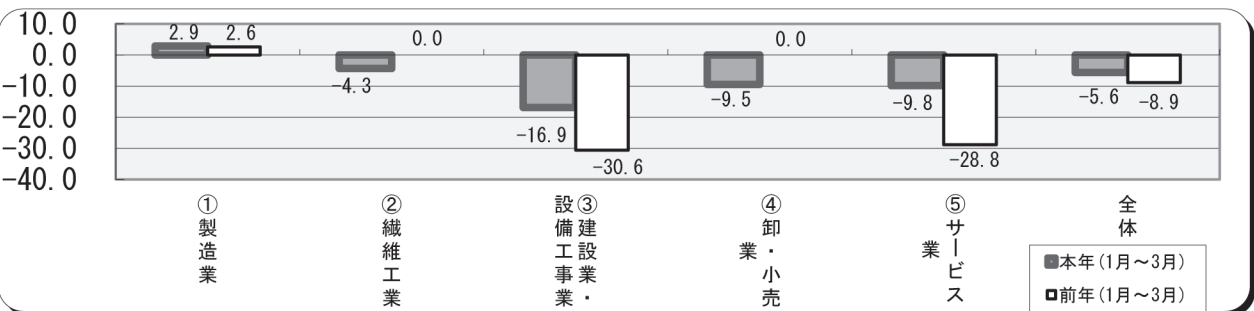
8. 資金繰りは前年同期に比べて



【資金繰りD I】

資金繰りD Iは、全体では▲12.0ポイント（前年同期▲20.3）と、前年同期と比べて8.3ポイント増加しマイナス幅が縮小した。業種別では、製造業、建設業・設備工事業、サービス業のマイナス幅が減少し、特にサービス業では前年同期比26.2ポイントとマイナス幅が解消。一方、繊維工業、卸・小売業ではマイナス幅が拡大した。

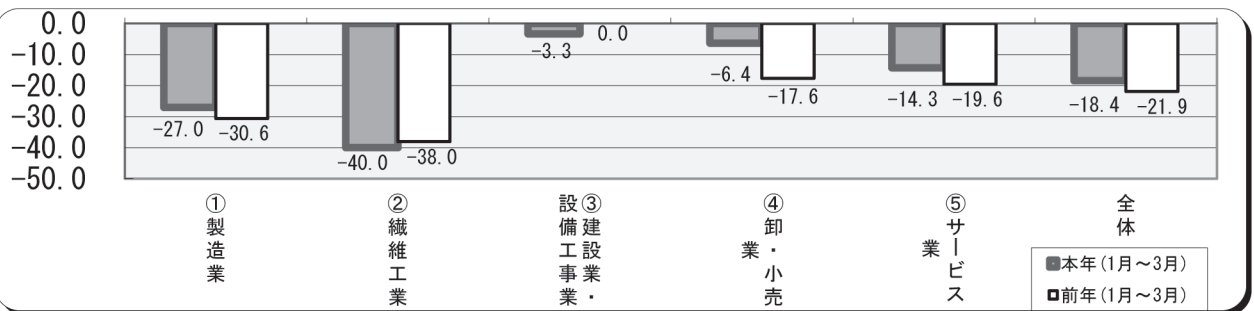
9. 労働力は前年同期に比べて



【労働力D I】

労働力D Iは、全体で▲5.6ポイント（前年同期▲8.9）と、前年同期に比べて3.2ポイント増加しマイナス幅が縮小した。業種別では、建設業・設備工事業、サービス業でマイナス幅が縮小し、製造業では昨年とほぼ同等であった。一方、繊維工業▲4.3ポイント、卸・小売業▲9.5ポイントとプラスからマイナスへと転じた。

10. 設備稼働率は前年同期に比べて

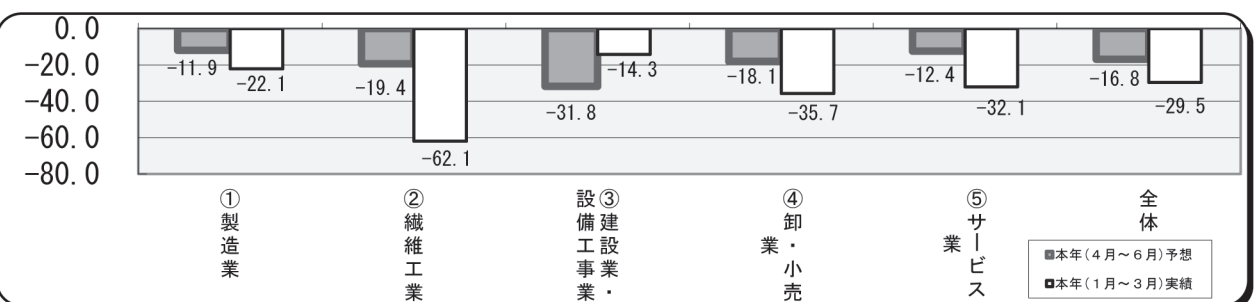


【設備稼働率D I】

設備稼働率D Iは、全体で▲18.4ポイント（前年同期▲21.9）と、前年同期に比べて3.5ポイントマイナス幅が縮小。業種別では、製造業、卸・小売業、サービス業もマイナス幅が縮小した。また、繊維工業ではではマイナス幅が拡大、建設業・設備工事業では3.3ポイント（前年同期0）と前年同期と比べ3.3ポイント増加しマイナスへ転じた。

II. 今後3ヵ月間(令和3年4月~6月)の推移の予想について

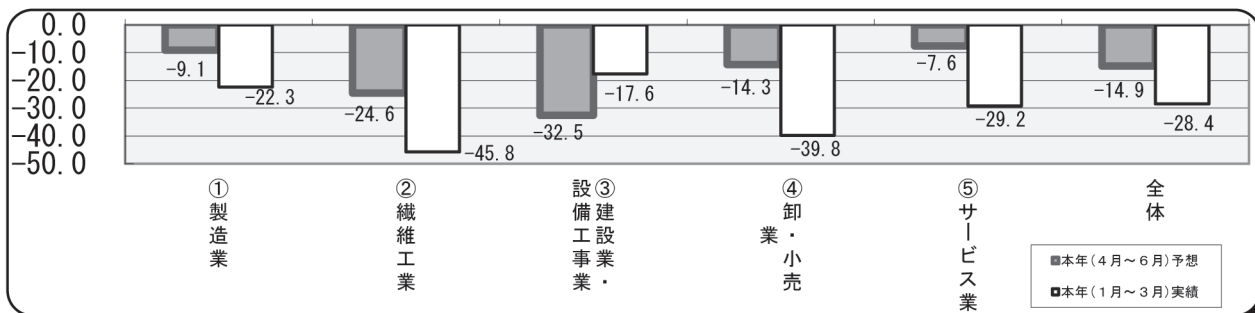
11. 業況は当期(1月~3月期)に比べて



【業況(当期に比べて) D I】

今後3ヵ月間の先行き見通しD Iは、全体で▲16.8ポイント(当期▲29.5)と、12.7ポイントマイナス幅が改善する見込みだが、依然マイナス傾向が続く。業種別では、製造業、繊維工業、卸・小売業、サービス業いずれもマイナス幅が改善する見込みだが、建設業・設備工事業においては悪化すると予想する回答が多い。

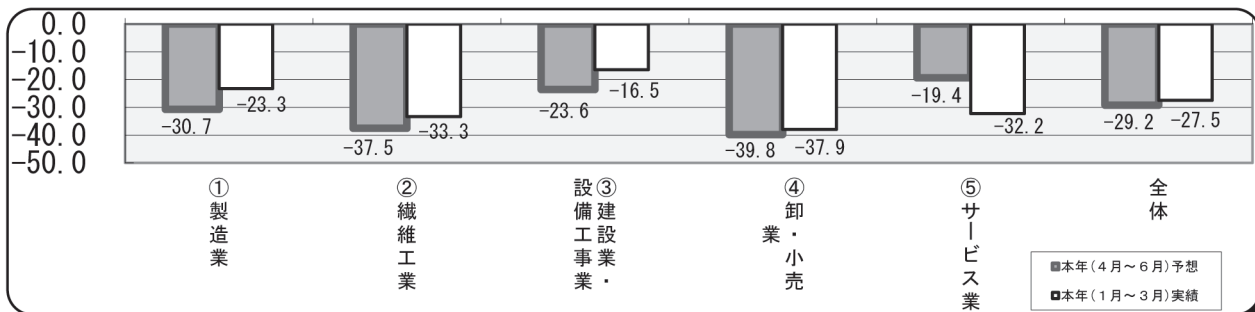
12. 売上高は当期(1月~3月期)に比べて



【売上高(当期に比べて) D I】

売上高D Iは全体で▲14.9ポイント(当期▲28.4)と13.5ポイントマイナス幅が縮小する見込みだが、依然マイナス傾向。業種別では、製造業13.2ポイント、繊維工業21.2ポイント、卸・小売業25.5ポイント、サービス業21.6ポイントと、マイナス幅が縮小される見込み。また、建設業・設備工事業14.9ポイントマイナス幅が拡大する見込み。

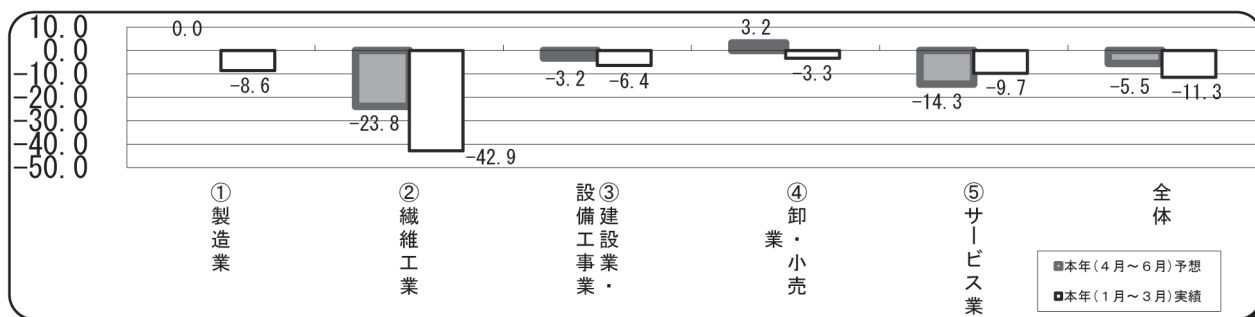
13. 仕入価格(原材料)は当期(1月~3月期)に比べて



【仕入価格(原材料) D I】

仕入価格(原材料)D Iは全体で▲29.2ポイント(当期▲27.5)と、1.7ポイントマイナス幅が拡大する見込み。業種別では、製造業、繊維工業、建設業・設備工事業、卸・小売業でいずれもマイナス幅が拡大する見込み。一方、サービス業ではマイナス幅が12.9ポイント縮小する見込み。

14. 受注・販売価格は当期(1月~3月期)に比べて

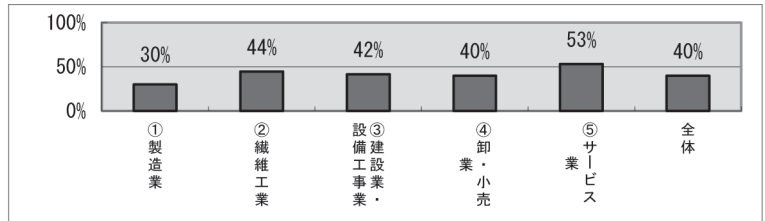


【受注・販売価格D I】

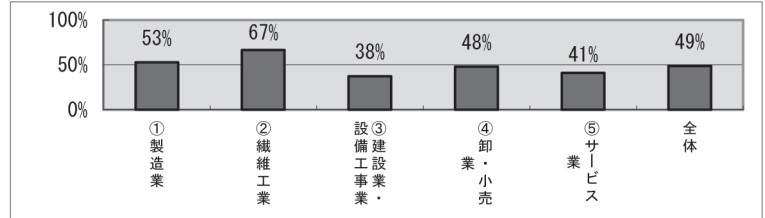
受注・販売価格D Iは全体で▲5.5ポイント(当期▲11.3)と、5.8ポイントとマイナス幅拡大の見込み。業種別では、繊維工業、建設業・設備工事業ではマイナス幅が縮小の見通しだが、卸・小売業ではマイナスからプラスに転じる見通し。製造業では0ポイント(当期▲8.6)で不変と回答する企業が多かった。サービス業は、4.6ポイントマイナス幅が拡大する見通し。

Ⅲ. 当期直面している経営上の問題点

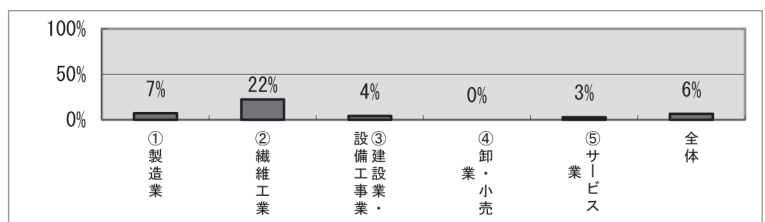
1. 経営の見通し（将来性）	
①. 製造業	17
②. 繊維工業	8
③. 建設業・設備工事業	10
④. 卸売業・小売業	10
⑤. サービス業	18
全 体	63



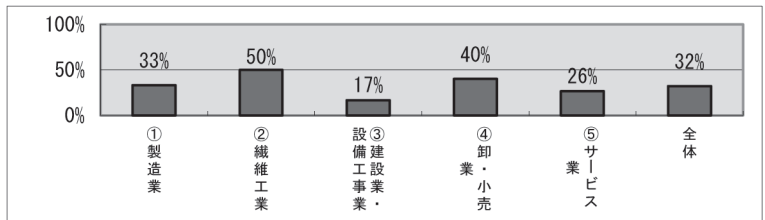
2. 売上（受注）の低下	
①. 製造業	30
②. 繊維工業	12
③. 建設業・設備工事業	9
④. 卸売業・小売業	12
⑤. サービス業	14
全 体	77



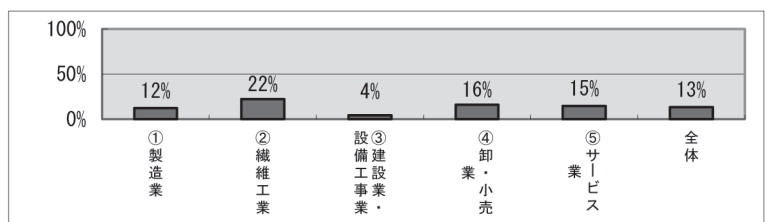
3. 工賃（請負）単価の低下	
①. 製造業	4
②. 繊維工業	4
③. 建設業・設備工事業	1
④. 卸売業・小売業	0
⑤. サービス業	1
全 体	10



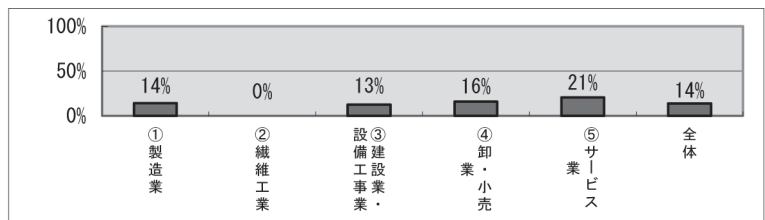
4. 原材料（商品）仕入価格の上昇	
①. 製造業	19
②. 繊維工業	9
③. 建設業・設備工事業	4
④. 卸売業・小売業	10
⑤. サービス業	9
全 体	51



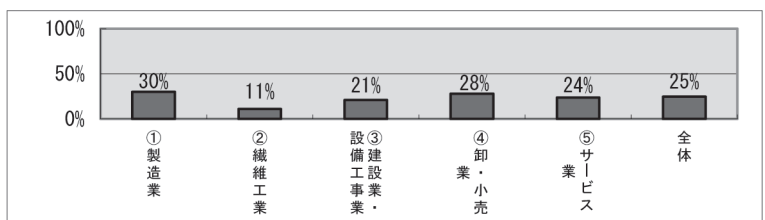
5. 資金繰りの悪化（資金調達など）	
①. 製造業	7
②. 繊維工業	4
③. 建設業・設備工事業	1
④. 卸売業・小売業	4
⑤. サービス業	5
全 体	21



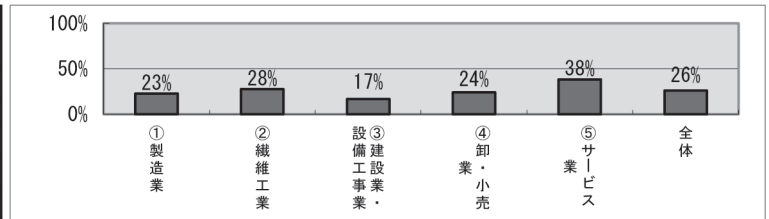
6. 既存事業の立て直し（コスト削減等）	
①. 製造業	8
②. 繊維工業	0
③. 建設業・設備工事業	3
④. 卸売業・小売業	4
⑤. サービス業	7
全 体	22



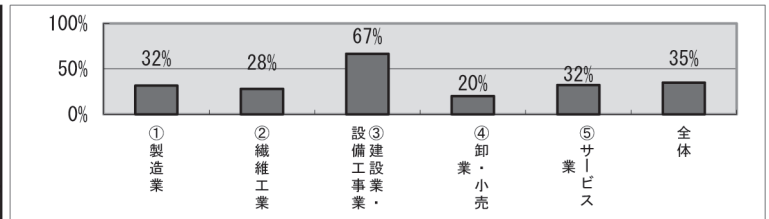
7. 経費（人件費・外注費）の増加	
①. 製造業	17
②. 繊維工業	2
③. 建設業・設備工事業	5
④. 卸売業・小売業	7
⑤. サービス業	8
全 体	39



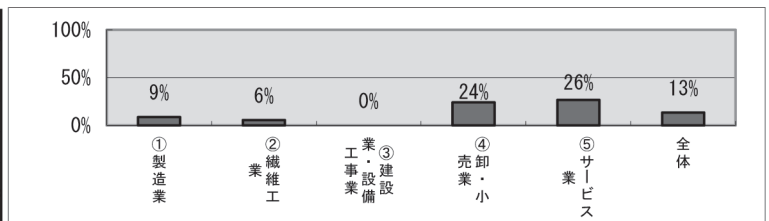
8. 設備・店舗・工場等の老朽化		
①. 製造業		13
②. 繊維工業		5
③. 建設業・設備工事業		4
④. 卸売業・小売業		6
⑤. サービス業		13
全 体		41



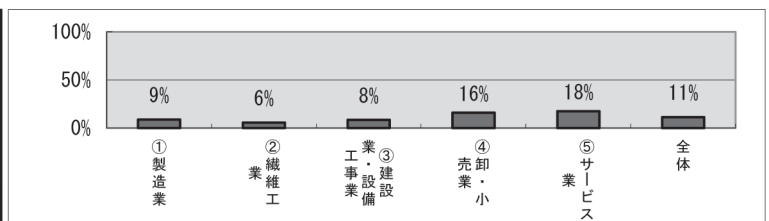
9. 従業員・技術者等の確保難		
①. 製造業		18
②. 繊維工業		5
③. 建設業・設備工事業		16
④. 卸売業・小売業		5
⑤. サービス業		11
全 体		55



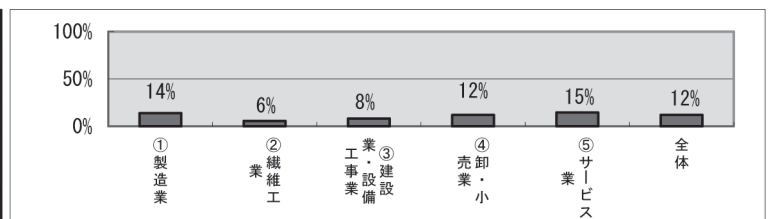
10. 消費者（製品）ニーズの変化		
①. 製造業		5
②. 繊維工業		1
③. 建設業・設備工事業		0
④. 卸売業・小売業		6
⑤. サービス業		9
全 体		21



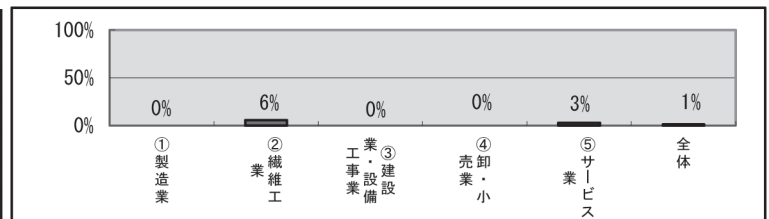
11. 業者間（大企業進出・新規参入）競争の激化		
①. 製造業		5
②. 繊維工業		1
③. 建設業・設備工事業		2
④. 卸売業・小売業		4
⑤. サービス業		6
全 体		18



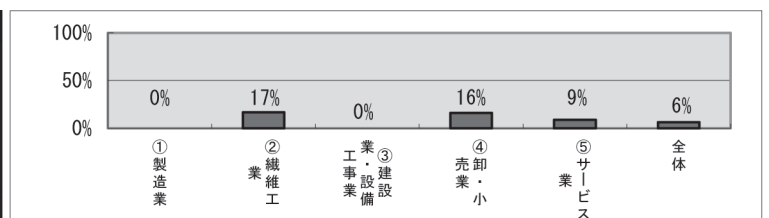
12. 後継者難と事業承継		
①. 製造業		8
②. 繊維工業		1
③. 建設業・設備工事業		2
④. 卸売業・小売業		3
⑤. サービス業		5
全 体		19



13. 円の動向による影響		
①. 製造業		0
②. 繊維工業		1
③. 建設業・設備工事業		0
④. 卸売業・小売業		0
⑤. サービス業		1
全 体		2



14. 電気料金値上げに伴う対応		
①. 製造業		0
②. 繊維工業		3
③. 建設業・設備工事業		0
④. 卸売業・小売業		4
⑤. サービス業		3
全 体		10



【経営上の問題点】

経営上の問題点では、全体で「売上(受注)の低下」を挙げた企業が46%で最も高く、次いで「経営の見通し(将来性)」(37%)、「技術者(従業員)の確保難」(33%)、「原材料(商品)仕入価格の上昇」(30%)、「設備・店舗・工場等の老朽化」(24%)、「経費(人件費・外注費)の増加」(23%)と続いている。

業種別では、「売上(受注)の低下」・「経営の見通し(将来性)」をほとんどの業種が問題点として挙げており、コロナ禍で先行きが見通せない状況から、不安を示す結果となっている。また、建設業・設備工事業では、「技術者(従業員)の確保難」(67%)が大きな課題となっている。

1月の緊急事態宣言により、不要不急の外出を余儀なくされ、前3か月との売上比はほとんどの業種で悪化した。緊急事態宣言解除後は、気温の上昇などの影響から日中の人出が増加し、業況は持ち直しの兆しが見られるものの、依然厳しい状況である。先行きは回復への期待感がみられるも、コロナ感染者の人数が増加傾向にあるため、警戒が続く。やはりワクチンの供給が急務であり、それまでは厳しい状況が続きそうだ。

【景況に関することや直面している問題点等のコメント】

◎製造業

- ・鋼材価格の高騰に加え、入荷遅延にある。自動車関連、半導体工場火災の影響から減産が続く。
- ・コロナによる影響が大きく、それに対しての支援金を出してほしい。
- ・航空会社が他業種への出向、転籍などをし、「従業員シェア」をしている報道を目にしたが、これは地方でも進められないだろうか。求人、求職側ともパワーやお金を使わずに済むし、行政が促進(助成金などを含め)することで、働き方のニューノーマルにもなる。スポーツチームのレンタル移籍同様、活躍する場、選択肢はもっと多い方がいい。
※労働局では既に「雇用シェア」という制度支援があるようだ。
- ・外食向けが減少し、家庭向け製品の売上げが伸びている。工場としては生産の手間が増加している。
- ・車関連の仕事をしているが、部品調達不足(半導体)により工場稼働率が悪化。
- ・中国向けの輸出が売上げ増加の牽引役となっている。中国・台湾と直接・間接の取引がある会社は業績が著しく改善していると思われる。

◎繊維工業

- ・工場単価の見直しを希望しているところ。
- ・全般に悪化しているが現況で動きが取れず困っている。新商品などの計画作成は続行し再始動に注視している。

◎小売業

- ・不要不急の外出を迫られ、手土産や贈り物などの贈答品の需要が減少していることが最も経営に影響を与えている。

◎飲食・サービス業

- ・前年同期はコロナ禍前だったので年末年始の帰省・新年会、年度代わりの歓送迎会等が自粛された状況が飲食・サービス業の低迷につながっていると思う。
- ・一時落ち着いたかに見えたコロナ感染も再び上昇するにつれ、飲食関係のダメージが大きい。特に4人以上の会食は控えるという風潮が、今後の経営に与える影響が大きい。

◎建設・設備業

- ・個人住宅新築着工件数の減少傾向。リフォーム工事件数の増加傾向。

足利市のチラシ折込調査レポート (2021.02)

調査地：足利市伊勢町

2021年2月の足利市の折込広告枚数は268枚で前年比マイナス21.4%（前々年比はマイナス25.1%）であった【※栃木県4地区平均では303.8枚、前年比-16.2%】。

※栃木県4地区…足利・宇都宮・那須塩原・小山

サイズ別では、B4(A4)サイズが最も多く全体の60.1%であった。次いでB3(A3)サイズの35.8%となり2種類のサイズが9割以上を占めた。また曜日別では、土曜日が最も多く全体の26.9%に上り、次いで水曜日の15.7%、木曜日の13.8%、火曜日、日曜日、金曜日、月曜日と続いた。

業種別では食品スーパーが64枚（前年比-16.9%）で、先月に引き続き首位となった。2位は医薬・化粧品で36枚（前年比-5.3%）、3位は家電・精密機器で25枚（前年比-21.9%）であった。4位は輸送機器で22枚（前年比-4.3%）、5位は衣料用品店で18枚（前年比+5.9%）となり、上位5業種では、衣料用品店が前年を上回る一方、それ以外全ての業種がマイナスとなった。

		9月	10月	11月	12月	1月	2月
足利	枚数(枚)	270	301	325	375	305	268
	前年比(%)	▲22.6	▲13.0	▲16.2	4.7	▲14.3	▲21.4
	前々年比(%)	▲28.4	▲31.1	▲27.0	▲12.8	▲26.0	▲25.1
栃木県平均	枚数(枚)	293.0	326.0	339.8	399.5	346.5	303.8

※栃木県平均…宇都宮・那須塩原・足利・小山地区の平均枚数

業種別出稿枚数ランキング(足利市)

(2021年2月1日～28日)

順位	業種(細分類)	枚数			前年比(%)	前々年比(%)
		21年	20年	19年		
1	食品スーパー	64	77	80	-16.9	-20.0
2	医薬・化粧品(ドラッグストア・通販等)	36	38	38	-5.3	-5.3
3	家電・精密機器	25	32	24	-21.9	+4.2
4	輸送機器(自動車・カー用品等)	22	23	25	-4.3	-12.0
5	衣料洋品店	18	17	19	+5.9	-5.3

サイズ別枚数(2021年2月1日～28日)

サイズ別				
B1(A1)	B2(A2)	B3(A3)	B4(A4)	B5(A5)
0	9	96	161	2
0.0%	3.4%	35.8%	60.1%	0.7%

曜日別枚数

(2021年2月1日～28日)

曜日別						
日	月	火	水	木	金	土
34	15	35	42	37	33	72
12.7%	5.6%	13.1%	15.7%	13.8%	12.3%	26.9%

調査：(株)栃木読売 IS